

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成24年11月20日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

発 表 事 項

1. 安達峰一郎研究プロジェクト本格始動
2. 平成24年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択

お 知 ら せ

1. 「非常時のための、優れた栄養バランスと加温機能を備えた保存食」の開発
2. 山形県内留学生就職シンポジウムの開催
3. 留学生・日本人学生による被災地ボランティア体験学習募集
4. 医学部公開講座「ここまで来たがん治療」開催
5. 地域教育文化学部造形芸術コース学生による美研展を開催

(参 考)

次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成24年12月4日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成24年11月20日

山形大学

山形大学安達峰一郎研究プロジェクト本格始動

全国の国際関係・国際政治及び国際法(理論)の研究者10名で、山形大学安達峰一郎研究プロジェクトを本格稼働。

山形が生んだ世界的な偉人、安達峰一郎博士の業績は、日本はもとより地元の山形でさえ、一般的には知られておらず、まだまだ正しい評価がされていない。

本プロジェクトは、安達峰一郎博士に光をあてて、その業績を正當に評価し、山形県民が誇りとしていただけるようにするものである。

また、安達博士が生きた、明治から昭和初期の日本の置かれた国際環境、国際政治、外交について、安達峰一郎博士を核にして研究を進め、山形大学が、その分野での中心となることを目指すものである。

なお、本プロジェクトは、国際司法裁判所判事(前所長)である小和田恆氏から、総括的立場から指導を頂きながら、国際政治・外交史と国際法の2つの研究グループに分かれて、研究を進めていく。

1. 研究内容等

今世紀初頭より戦間期にかけての国際関係・国際政治及び国際法(理論)の展開について、思想史をも視野に入れて、総合的に研究する。

なお、国際関係・国際政治については、イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ及び日本の日本の各観点(ルート)から総合的に研究を進める。

もう一つの焦点を安達峰一郎に置き、常設国際司法裁判所の開設、国際連盟の開設に至る議論及びその後の運営等において安達峰一郎が果たした役割、及び、安達峰一郎の活動のバックボーンを成す彼の国際法理論について、研究する。

2. 研究方法等

本プロジェクトの推進のため、国際政治・国際関係の研究グループと国際法の研究グループに分かれて、研究を推進する。

各研究グループの研究会(報告及び討論)を年数回、全体の研究会を年1回程度開催し、研究成果・情報を交換しながら、各自の研究、研究グループの研究を摺り合わせ、プロジェクト全体の研究を進める。

研究成果については、4年後(平成28年度末)を目途に研究書をまとめ、公刊する。

(お問い合わせ)

山形大学総務部総務課総務担当

(TEL) 023-628-4006

安達峰一郎研究プロジェクトチーム 名簿

< 国際政治・外交史 >

氏 名	所属・役職	備 考
井上 寿一	学習院大学教授	
後藤 春美	東京大学教授	
篠原 初枝	早稲田大学教授	
三牧 聖子	埼玉大学非常勤講師	
黒田 俊郎	新潟県立大学教授	
牧野 雅彦	広島大学教授	

< 国際法 >

氏 名	所属・役職	備 考
柳原 正治	九州大学教授	
植木 俊哉	東北大学理事	
明石 欽司	慶応大学教授	
李 禎之	岡山大学准教授	

< 総括 >

氏 名	所属・役職	備 考
北野 通世	山形大学理事	
北川 忠明	山形大学教授	

平成24年11月20日
山形大学

平成24年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択

文部科学省が大学の国際化を支援するため行う「国費外国人留学生を優先的に配置するプログラム」（政府が大学に一定の特別枠を保障し、その枠内で採用する外国人留学生に対して、文部科学省が奨学金等を負担）に採択されました。今後、大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻を中心に、ポリビア多民族国のリチウム資源開発に求められるマネジメント人材を育成します。

文部科学省の実施する「国費外国人留学生優先配置特別プログラム」に、山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学（MOT）専攻が採択されました。同プログラムには、全国から80大学、計217件の応募があり、26大学、計41件が採択されました。今後、MOT専攻では、「リチウム開発のためのマネジメント人材育成プログラム」に取り組みます。

本プログラムは、南米のポリビア多民族国にあるウユニ塩湖に未開発のまま存在するとされているリチウム資源（世界埋蔵量の半分程度と推定）の開発や産業化に資する人材を国費留学生（修士課程の2年間）として受け入れ、技術経営学や生産管理、さらにはリチウムに関連する周辺技術などを学ぶというものです。リチウムは携帯電話やパソコンなどの移動式電化製品の二次電池としての用途のほか、近年は電気自動車（EV）のバッテリーや家庭用・産業用蓄電池の原材料としても注目されています。山形大学では人材育成を通じて、オールジャパン体制で取り組んでいる同国のリチウム資源開発を学術的に支援し、かつ同国における経済・社会・人材開発に貢献します。

事業期間は平成25年10月から5ヵ年となっており、選抜試験に合格した学生は、日本政府の国費留学生として学びます。山形大学の包括的学術協定校であるサンアンドレス大学（UMSA）や、オルコ工科大学（UTO）、トマスフリア自治大学（UATF）などから国費留学生を受け入れ、MOT専攻において、5年間で計20名（毎年4名×5年）の留学生を育成します。

本プログラムは、日本とポリビアの両国間首脳声明（2010年の当時の菅総理とモラレス大統領）を推進する位置づけにあります。事業推進にあたっては、文部科学省のほか、経済産業省、資源エネルギー庁、外務省、JOGMEC（独立行政法人石油天然ガス・鉱物資源機構）、JICA（独立行政法人国際協力機構）などとも連携を行います。またポリビア側では、関係大学に加えて、COMIBOL（ポリビア鉱山開発公社）とも連携を行います。

新エネルギー産業は、これからの日本の産業・経済を牽引すると見込まれ、新規雇用拡大なども期待されています。山形大学では、本プログラムを通じて、日本の産業支援等にも貢献していきます。



(写真左) サンアンドレス大学との学术交流
(写真右) サンアンドレス大学の外観



(写真左) トマスフリア大学の外観
(写真右) オルロ工科大学の外観



(写真左) リチウム開発が進むウユニ塩湖
(写真右) 2011年に行われた両国政府主催の経済開発セミナー

文部科学省：平成24年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」審査結果
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/boshu/1327736.htm

(お問合せ先)
山形大学渉外部国際交流室
三宅和広
電話 023-628-4118
山形大学大学院理工学研究科
兒玉直樹・綾部誠

プレス通知資料（概要）

平成24年11月20日
山形大学

1. 「非常時のための、優れた栄養バランスと加温機能を備えた保存食」の開発

山形大学地域教育文化学部、気仙沼ほてい株式会社、東洋製罐株式会社および双日プラネット株式会社は、独立行政法人科学技術振興機構(JST)復興促進センターの研究助成課題の成果として、「非常時のための優れた栄養バランスと加温機能を備えた保存食」を開発し、その成果品を「東北地域アグリビジネス創出フェア 2012」で発表します。

日時 平成24年12月5日(水) 10:00～17:30

会場 仙台市情報・産業プラザ 多目的ホール、展示ホール(アエル5階)

入場無料

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

2. 山形県内留学生就職シンポジウムの開催

山形県内に住んでいる留学生を対象に、就職シンポジウムを開催します。

日本企業で働く留学生 OB が、今の仕事の様子、日本人と一緒に働いて思うこと、後輩へのアドバイスなどを話します。日本で働きたい留学生の質問にもお答えします。

日時 平成24年12月1日(土) 10:00～12:00

会場 山形大学工学部(米沢市)

100周年記念会館 1階セミナー室

申込締切 平成24年11月26日(日)

参加費 無料(山形駅から山形大学工学部までの交通費は、山形大学で負担します。)

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

3. 留学生・日本人学生による被災地ボランティア体験学習募集

この体験学習では、日本人学生と留学生がボランティア作業に協働に従事し、多文化共生の意義について理解を深め、コミュニケーション能力や語学力の向上を図ります。また被災地において実践型ボランティアの養成講座を受講することで、これからの自然災害や国際社会において求められる行動力・自主性・環境適応力を向上させます。

また、東日本大震災の被災地で現状を理解し、救援・支援活動および放射能の風評被害について課題を分析することで、東北・日本の復興に向けた解決策を探ります。

日程：平成24年12月22日(土)～23日(日)

場所：宮城県石巻市(22日朝に山形大学米沢キャンパス 小白川キャンパスからバスで出発)

宿泊場所：石巻グランドホテル(1泊2食付き)

募集人員：山形県内の大学に在籍する大学生(日本人学生13名,留学生13名の計26名)

参加費：原則無料(未加入の方は、社会福祉協議会のボランティア保険に加入が必要)

申込期限：平成24年11月22日(木)

(先着順:応募者多数の場合は志望理由により大学割当定員別に選考)

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

4. 医学部公開講座「ここまで来たがん診療」開催

医学部では、平成24年度公開講座として、「ここまで来たがん診療」～治療の最前線と在宅治療・ケアの実現と課題～を開催し、がん治療の最新的话题を提供します。

日 時 平成25年1月26日(土) 13時～16時30分

会 場 山形医学交流会館

対象者 医療従事者(医師、看護師、薬剤師、医療事務等)

受講料 4,000円

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

5. 地域教育文化学部 造形芸術コース学生による美研展を開催

山形大学地域教育学部造形芸術コースの学生による絵画、彫刻作品の展覧会です。

美研展では1・2年生が主体となり、日頃から作品を制作し研鑽した成果を発揮します。

期間:11月26日(月)～12月1日(土) 10時～17時30分

場所:山形芸文館ギャラリー2(山形市七日町ナナビーンズ6階)

入場無料です。

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

平成24年11月20日
山形大学

「非常時のための、優れた栄養バランスと 加温機能を備えた保存食」の開発

山形大学地域教育文化学部、気仙沼ほてい株式会社、東洋製罐株式会社および双日プラネット株式会社は、JST復興促進センターの研究助成課題の成果として、「非常時のための優れた栄養バランスと加温機能を備えた保存食」を開発し、その成果品を「東北地域アグリビジネス創出フェア2012」にて発表いたします。

東日本大震災での避難所生活では、連続した座位姿勢に加えて、摂取栄養の乱れ、冷えた食事等が原因で、多くの避難者に血圧不良やエコノミー症候群などの疾患悪化が誘発されました。もし、栄養バランスがよく、血流改善などの機能性を持った温かい食事が避難所で提供されていれば、これらのリスクは大きく軽減できたと考えられます。

そこで、山形大学地域教育文化学部食環境デザインコースの学生と、震災により大きな被害を受けたにも関わらず、いち早い復興を目指す気仙沼ほてい株式会社を中心となり、東洋製罐株式会社、双日プラネット株式会社と合同で、1)優れた栄養バランスを有した、2)糸を引けば自動的に温まる機能を有するレトルト保存食を開発いたしました。そして、その成果品を、12月5日(水)の「東北地域アグリビジネス創出フェア2012」において発表いたします。

本成果は、JST(独立行政法人科学技術振興機構)による「産学官連携による東北科学技術イノベーション創出プロジェクト」の一環として研究助成されている、復興支援のためのマッチング促進プログラムの研究成果の一部です。

開発した保存食は、醤油だしベースの雑炊であり、1パック250gで成人男性の1食あたりの必要栄養分の約1/3をバランスよく補給できるようになっています。また、食事は避難時の楽しみであることを考え、機能や美味しさにも充分配慮しました。例えば、食材には血液循環をよくすることで代謝向上性が期待できる食品(エゴマの成分)を使用したり、山形県農業総合研究センターのご協力によりつや姫の玄米を使用するなど、優れた栄養を持ち、かつ美味しい山形県産農産物を使用しました。さらに、駅弁等で使用されている加温システムを最適化することで、水素ガスの発生なしで60℃まで食事を温めることができ、体育館などの避難先でも温かい食事の提供が可能になります。この保存食により、身も心も温められ、避難時の一助になることが期待されます。

(お問合せ先)
地域教育文化学部食環境デザインコース
小酒井貴晴(電話 628-4354)

東北地域アグリビジネス創出フェア2012 開催要領



本フェアは、農林水産省の実施する委託事業『地域産学連携支援委託事業』の一環として実施するものです。

1 趣旨

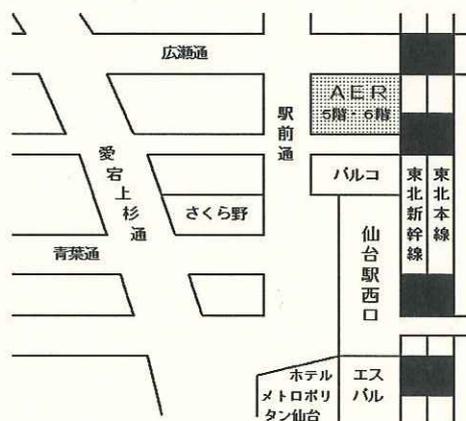
東北地域の農林水産・食品関連企業、生産者団体、大学、公設試験研究機関、独立行政法人、行政機関等に出展を募って「東北地域アグリビジネス創出フェア2012」を開催し、技術シーズの展示とともにシーズ・プレゼンテーションを行うことにより、技術シーズと研究ニーズのマッチングを図る例年の展示のほか、24年度から本格実施している農林水産業の復興を加速するための先端技術を駆使した大規模実証研究課題、24年度中に得られた成果等の集中展示を企画いたします。

2 日時

平成24年12月5日(水)
10:30~17:30

3 場所

仙台市情報・産業プラザ
多目的ホール、展示ホール（アエル5階）
〒980-6105
宮城県仙台市青葉区中央1丁目3番1号
TEL: 022-724-1200



4 プログラム

- | | |
|-------------------------------------|-------------|
| (1) ブース展示 (多目的ホール) | 10:30~17:00 |
| (2) 基調講演① (多目的ホール) | 11:15~12:25 |
| 基調講演② (多目的ホール) | 13:30~14:30 |
| (3) 出展者によるショートプレゼンテーション
(多目的ホール) | 14:30~17:30 |
| (4) 相談会 (展示スペースI) | 11:00~17:00 |

5 主催

東北地域農林水産・食品ハイテク研究会
農林水産省東北農政局

6 共催

社団法人農林水産・食品産業技術振興協会 (JATAFF)

7 後援

東北経済産業局
社団法人 東北経済連合会
社団法人 東北ニュービジネス協議会
東北地域バイオインダストリー振興会議
東北米粉利用推進連絡協議会
独立行政法人 科学技術振興機構 JST復興促進センター (予定)

8 参集範囲

農林水産・食品関連企業、生産者・生産者団体、消費者・消費者団体、大学、公設試験研究機関、独立行政法人、行政機関等

9 入場料

無料

山形県内留学生 就職シンポジウム

～留学生OBが語る「日本で働くということ」～

2012

12月1日(土)

10:00 ~ 12:00

参加費
無料

※山形駅ー山形大学工学部間の
交通費は山形大学が負担します

日本企業で働く留学生OBが

- ・今の仕事の様子
- ・日本人と一緒に働いて思うこと
- ・後輩へのアドバイスについて…など

じっくり・親身に語ります！

日本で働きたいあなたの質問にズバリお答えします！



会場

山形大学工学部100周年記念会館
1F セミナー室

申込方法

下記の申込先まで氏名、大学名(学部名・学科名)、学年、学籍番号、国籍、電話番号、メールアドレスを記載の上、メール(右下のQRコードをご利用ください)または窓口(工学部学務課学生支援担当)で直接お申込みください

申込締切：11/26(日)



【本件についての問合せ・申込先】

山形大学工学部・国際交流センター
工学部学務課学生支援担当内：黒沢
TEL：0238(26)3017

Email: kougakusei@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

留学生・日本人学生による 被災地ボランティア体験学習募集



日本人学生と留学生がボランティア作業に協働で従事することにより、多文化共生の意義について理解を深め、コミュニケーション能力や語学力の向上を図ります。また被災地において実践型ボランティアの養成講座を受講することで、これからの自然災害や国際社会において求められる行動力・自主性・環境適応力を向上させます。

東日本大震災の被災地で現状を理解し、救援・支援活動および放射能の風評被害について課題を分析することで、東北・日本の復興に向けた解決策を探ります。

- ◆日程: 2012年12月22日(土)～23日(日)
- ◆場所: 宮城県石巻市(22日朝に山形大学米沢キャンパス → 小白川キャンパスからバスで出発)
- ◆宿泊場所: 石巻グランドホテル(1泊2食付き)
- ◆募集人員: **山形県内の大学に在籍する大学生**(日本人学生13名、留学生13名の計26名)
- ◆参加費: **原則無料**(未加入の方は、社会福祉協議会のボランティア保険に加入していただきます)
- ◆申込期限: **2012年11月22日(木)**(先着順: 応募者多数の場合は志望理由により大学割当定員別に選考)
- ◆主催等: 主催＝山形大学工学部国際交流センター、企画・実施はボランティア山形、引率教員: 綾部誠准教授
- ◆備考: 本企画は文部科学省の「留学生交流拠点整備事業」の一環で行います。

◆派遣までの流れと内容

- ① メールによる申し込みと派遣者の選考・決定(メールで決定通知)
 - ② オリエンテーションへの参加(山形大学米沢キャンパス(小白川はテレビ会議システムで参加、全員参加)日時と場所については派遣予定者に別途メールにて連絡します。)
 - ③ 派遣前学習(テキスト学習と事前レポートの提出、メールで12月14日迄に提出)
 - ④ 現場学習(2012年12月22～23日)
 - ◆被災地におけるボランティア活動、被災者による講演
 - ◆ボランティア養成講座の受講、災害避難の模擬体験
 - ⑤ 2日間の体験についてのレポート提出(後日提出)
- ※ 詳細はオリエンテーションで説明します。派遣予定者は必ず参加してください。

◆申込方法

◆下記の申込先まで、氏名、大学名(学部名・学科名)、学年、学籍番号、国籍、住所、電話番号、メールアドレス等、および参加志望理由(400字程度)を記載したうえで、メールまたは窓口(工学部学務課学生支援担当)で直接申し込んで下さい(所定の用紙にして提出してください)。



【問い合わせ・申込先】
 山形大学工学部・国際交流センター
 工学部学務課学生支援担当内: 黒沢
 TEL: 0238(26)3017
 E-mail: kougakusei@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

● one for All,
ひとりみんなのために、みんなは日本のために。
 All for Japan.

絆

平成24年度 山形大学医学部公開講座

ここまで来た がん診療

～治療の最前線と在宅治療・ケアの実現と課題～

がん治療の最新的话题を提供します。薬物療法・放射線療法の治療法の最新の情報は勿論、最近重要視されている在宅におけるがん治療と緩和ケアに関する現状と問題、特に今後の取り組むべき課題を解説する事で、在宅がん治療における問題の共有を図ります。

また、本講座は、がんの病院治療から在宅治療へのシームレスな移行を考えるきっかけを作る事も目的とし、受講対象は、医師・看護師・薬剤師・医療事務と医療に携わる方々全般ではありますが、特に在宅緩和医療に興味を持つ医師、在宅看護に従事する看護師の参加もお待ちしております。



開催日時 平成25年1月26日(土) 13:00～16:30

受講対象者 医療従事者
(医師、看護師、薬剤師、医療事務等)

受講料 4,000円

場所 山形医学交流会館(別紙地図参照)

募集人数 100名

受講の手続 申込期間 平成24年11月12日(月)～平成24年12月14日(金)まで

申込方法 「払込取扱票」に記入の上、郵便局で手続きしてください。
通信欄に職業等、必要事項を記入してください。
先着順に受け付け後、受付証をお送りします。

問合せ先 医学部総務課庶務担当
〒990-9585 山形市飯田西2-2-2
TEL / 023-628-5006 FAX / 023-628-5019



12:30~13:00 受付

13:00~13:10 開講式

13:10~13:40 **1 ここまで変わった、がん薬物療法**
山形大学医学部附属病院腫瘍内科助教 福井忠久 先生

13:40~14:10 **2 ここまで来た体に優しい放射線治療**
放射線医学総合研究所重粒子医科学センター 野宮琢磨 先生

14:10~14:40 **3 がん患者の在宅療養移行支援**
山形大学医学部看護学科地域看護学講座助教 大竹まり子 先生

(14:40~14:50 休憩)

14:50~15:20 **4 希望する療養場所で過ごすために~自宅でも続いていく緩和ケア~**
山形大学医学部附属病院麻酔科助教 奥山慎一郎 先生

15:20~15:50 **5 ここまで来た在宅がん医療**
国立がん研究センター中央病院 岩佐 悟 先生

15:50~16:20 **6 総合討論**
山形大学医学部附属病院腫瘍内科主任教授 吉岡孝志 先生

16:20~16:30 閉講式

ここから切り離して郵便局にお出しく下さい。

02		払込取扱票										通常払込料金 加入者負担			
口座番号		百 十 万 千 百 十 円										金 額		千 百 十 万 千 百 十 円	
0 2 2 6 0 - 7		9 2 4 7 8										4 0 0 0			
加入者名	国立大学法人山形大学										料金	特殊 取扱			
通信欄	※ 山形大学医学部公開講座 この払込用紙は、1人1枚をご使用ください。 ●職業 _____ ●勤務先 _____ ●性別 男 ・ 女 _____ ●年齢 _____ 歳 ●受講歴 _____ <small>※個人情報について 提出いただいた書類の個人情報は、本公開講座の参加に関する手続きのみに使用し、第三者に開示・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、今後の公開講座やセミナー等のご案内を本学からお送りする場合がございます。 □ 承諾する □ 承諾しない (いずれかをチェック願います。)</small>														
ご依頼人	※ おところ (郵便番号 _____) _____ 様										受付局日附印				
裏面の注意事項をお読みください。(私製承認仙第8982号)												これより下部には何も記入しないでください。			

払込金受領証													
口座番号	0 2 2 6 0 - 7										通常払込 料金加入 者負担		
	百 十 万 千 百 十 円										9 2 4 7 8		
加入者名	国立大学法人山形大学										金額	千 百 十 万 千 百 十 円	
											4 0 0 0		
ご依頼人	おなまえ ※ _____ 様										料金	受付局日附印	
											特殊取扱		

各票の※印欄はご依頼人において記載してください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押ししてください。切り取らないで郵便局にお出しく下さい。



ここから切り離して郵便局にお出しく下さい。

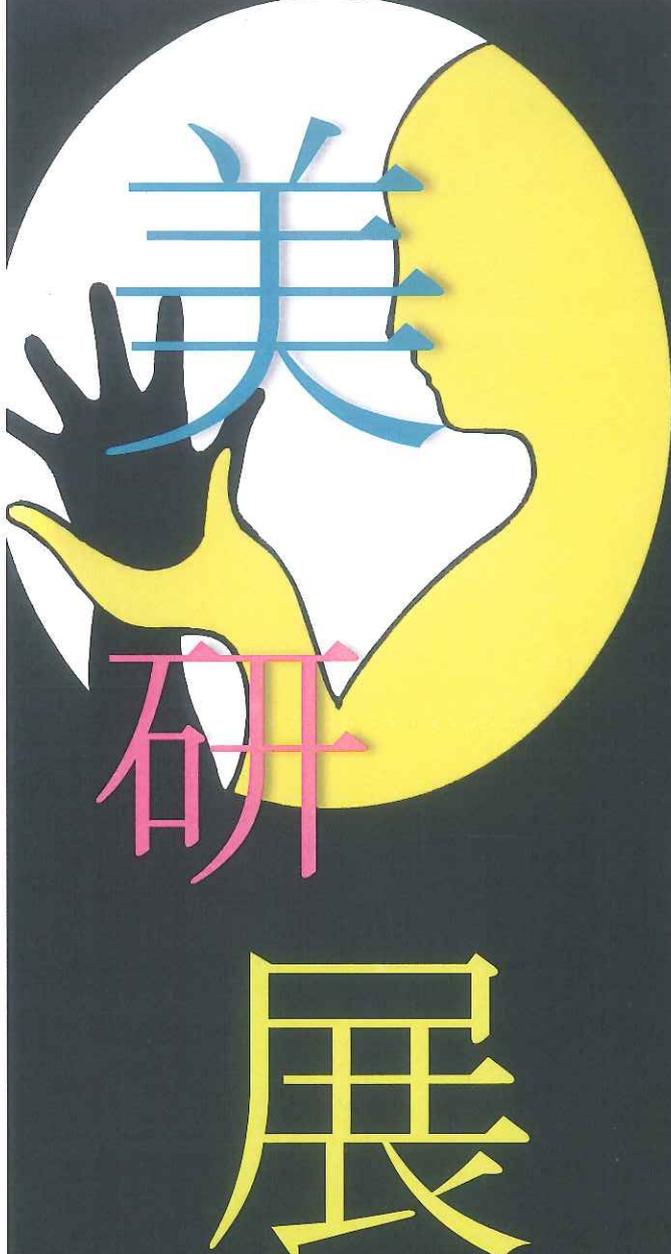
この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。

ご注意

この払込書は、機械で処理しますので、口座番号及び金額を記入する際は、枠内に丁寧に記入してください。

また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

この払込取扱票の裏面には、何も記載しないでください。



造形芸術コース展覧会

11月26日(月)
—12月1日(土)
10:00~17:30

山形市七日町ナナビーンズ6階 山形芸文美術館ギャラリー2

※入場無料※最終日のみ12:00まで

☎080-5222-3032(代表:熊谷)

☐dolce-melone.o32-m64@ezweb.ne.jp

